

8 転換畑における青刈りヒエ導入の農家事例（農試県北分場）

(1) 背景とねらい

転換畑における青刈りヒエ導入のための現地実証展示圃のなかから明らかになった技術ならびに経営上の位置づけについて参考に供する。

(2) 技術内容

- 1) 田植機によって栽培が容易にできる。
- 2) 収量は慣行（手植え）に比べて機械移植が多収となったが、それは栽植密度の増加による。
（生草重、飛驒在来、5.3t/10a 在来白ヒエ 4.1t/10a、子実重在来白ヒエ 262Kg/10a）
- 3) 生草の刈取りはバインダーを利用できる。
- 4) 栽培ヒエの雑草化について脱粒した子実は発芽し易いが晩秋の寒さで全部枯死する。また秋耕などにより一部地中に残った子実は春の耕うん後浅水にしておくと発芽してくるが、代かき後は発芽しない。
- 5) 転作ヒエの利用については子実を販売し、稈を家畜の粗飼料とする形態が多い。（県北地帯）

(3) 現地実証展示 の成績概要

1) 調査方法

① 供試条件

品 種	育苗 場所	育 苗 条 件	播 種 月 日	移 植 月 日	移植 条件	栽植条件	株 数 株/m ²	備 考
1. 飛驒在来	農家	畑苗代	5.10	6.11	手植	畦巾×株間 25×30	13.3	1. 施肥 5月30日 2. 肥料名 燐安加里 (えびす特号)
2. 飛驒在来	分場	箱育苗	5.9	6.11	機械	畦巾×株間 30×14	23.8	
3. 在来種 (白ヒエ)	農家	畑苗代	5.10	6.11	手植	畦巾×株間 25×30	13.3	
4. 在来種 (白ヒエ)	農家	箱育苗	5.10	6.11	機械	畦巾×株間 30×14	23.8	

② 施肥量 (成分/a)

N ~ 0.52 P₂O₅ ~ 0.68 K₂O ~ 0.48

③ 除草剤 (Kg/a)

M O 粒剤 ~ 3 Kg (7月5日)

④ 刈取り時期

出穂期 ~ 穂揃期

2) 生育収量調査

試験区名	生育収量調査							
	草丈 (cm)	茎数 (本/株)	生草重 (Kg/a)	同左標比 (%)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	子実重 (Kg/a)	同左標比 (%)
1 飛驒在来 (標) (畑苗代 ~ 手植)	157	5	309	100	—	—	—	—
2 飛驒在来 (箱育苗 ~ 機械移植)	153	6	529	171	—	—	—	—
3 在来種白ピエ (畑苗代 ~ 手植)	146	7	240	78 (100)	132	11.2	24.3	100
4 在来種白ピエ (箱育苗 ~ 機械移植)	126	10	405	131 (169)	115	9.3	26.2	108

9 労働生産性からみた作物選択の指標 (農試 流通経済科)

(1) 背景とねらい

水田利用再編や畑作振興上から新規導入作物の選択する機会が多くなっている。このようにことから労働生産性を基準とした作物選択の指標として指導上の参考に供する。